

作物専攻	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イネ	播種	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育
野菜専攻	播種	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育
果樹専攻	播種	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育
花き専攻	播種	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育

栽培スケジュールがまとめられたGoogleスプレッドシート

活用場面

一斉学習
教師による教材の提示

個別学習
個に応じた学習
調査活動

協働学習
発表や話し合い
協働での意見整理
協働制作

活用した機器等

Chromebook
プロジェクター

活用したアプリ等

Google マップ
Google スライド
Google スプレッドシート

Googleマップから見た学校



AからDまでの学校の畑で栽培している作物を見て、なぜそのような作付体系であるのかを考える。

生徒が作成したスライドGoogle スライド

学習のねらい

本時までには、農業を取り巻く土壌要素、気象要素、生物要素について触れるとともに、ヒトに対しての有害生物および病害虫の効果的な防除法としてIPM防除について考える活動を実施してきた。
それらを踏まえ、本時では栽培計画を考える導入として、自校の作付計画を作成する活動を通して、これまで栽培してきた園芸植物がいつ・どのような作付体系で栽培しているのかや、そのメリット及びデメリットについても考えることで、作付体系についての理解をさらに深める。

学習の流れ

導入

- これまでの学習を振り返り、どのような栽培技術を学んだのかや、作物ごとの適した栽培方法について確認する。
- 本時の目標を確認し、どのように作付計画を考えていくのかについて見通しを持つ。

展開

- 作付体系（連作、輪作、単作、混作等）を踏まえ、栽培する各作物に適した作付体系を予想し、選択する。
- 各作付体系のメリット、デメリットについて調べ、グループで共有し、予想が正しかったかを考える。
- 実際に自校の畑では、どの作物に作付体系を採用しているかを調べる。

まとめ

- 本時の内容を振り返り、作付体系や連作障害についての理解を深める。
- 本時の学習を通して作付計画を栽培計画にどのように生かせるかを考える。

ここでICTを活用！（実演場面）

- 導入で栽培スケジュールがまとめられたGoogleスプレッドシートを提示し、「各専攻の作物を効率的に栽培するには、どのようなことを考えるべきか」を生徒と確認し、作付体系や作付計画を考えるきっかけを与える。
- 作付体系の種類について、インターネットで調べる。また調べた内容をGoogleスライドにまとめ、グループで共有する。
- 学校の畑ではどのような栽培をしているのかを、上空撮影した写真（Googleマップ）を投影して確認する。さらに、マップに加筆したりすることで、エリアごとにどのような栽培計画にするのかを具体的に考えていく。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

1人1台端末を活用することで生徒が各々インターネットを通じて調べることができるようになるとともに、協働編集機能を用いることで調べたことを協働してまとめたりする等の作業が行えるようになった。また、農場の写真を用いた活動では、他の専攻の生徒の栽培計画を共有機能を用いて知ることができ、そこから自身の栽培計画をブラッシュアップすることができた。さらに、電子データに蓄積することで生徒たちはいつでも学習内容を振り返ることができた。